



みんなで子育て



西濃県務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 酒井 俊巨
電話:0584-73-1111 <内線212>
E-mail : sakai-toshinori@pref.gifu.lg.jp

家庭教育についての
相談はこちらまで。
お待ちしております。

西濃地区家庭教育応援通信「みんな
で子育て」(令和5年度) - 岐阜県公
式ホームページ (西濃県事務所)
www.pref.gifu.lg.jp

あけましておめでとうございます。

日頃は、家庭教育学級の開催にご尽力いただきありがとうございます。家庭教育学級を取材させていただいたとき、子どもたちや保護者の皆様の笑顔あふれる姿を見ることが私の喜びとなっております。家庭教育学級を企画・運営していただける方がいるから、こうした機会が生まれるといつも感謝しております。ありがとうございます。



子育て時代が人生の華

子育ては、忙しく、大変です。何もできない子どもが1つ1つできるようになるには、大人のフォローが必要です。子どものことで悩み、苦しむこともあるでしょう。でも、後から振り返ってみれば、子育ての時期は短く、二度とやってこない限られた時間です。その時期に、「親と子が笑顔でいられる時間」は、子どもにとっても、親にとっても宝物です。「思い込み」は「重いゴミ」と考えて捨ててしまい、感謝の言葉を伝えましょう。

子育てのだいご味

親と子が一緒に
課題に向かい、
親と子が一緒に
達成感を感じる。



親子が笑顔でいられる時間を長く続ける



「持続可能な家庭教育」のために

来年度の引継ぎに向けて

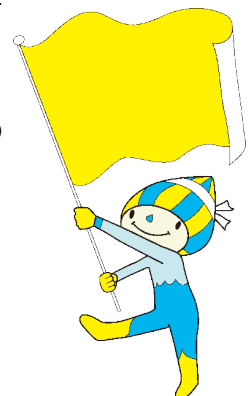
家庭教育振興は、昭和39年度から市町村が開設する家庭教育学級に助成を行ったことから始まったとされています。岐阜県でも、家庭教育学級の開設を薦め、特に小学校のPTAとの連携によって開設・運営がなされていたことが多かったようですが、だんだん幼稚園や中学校にも広がりました。今でも市町主催の乳幼児対象の取組を家庭教育学級という名称で行っている地域もあります。

家庭教育学級には、そうした経緯があり、PTAが企画し、自主的に行うものと思われがちですが、家庭教育について学ぶ家庭教育学級のような取組は、現在でも、県や市町の行政・地域・園・学校などで広く行われています。

家庭教育学級の開催については、家庭教育学級長さんではなく、PTA役員や保護者会が中心となったり、園や学校の担当者の方が中心となったり、地域の公民館・支援センターと連携開催であったりと、様々な形式があります。ぜひ、今ある家庭教育学級が継続的に開催できるように、それぞれにあったやり方を見つけてください。

今月の通信も、先月に引き続き、そういった事例を紹介します。

参考にしていただき、みんなで一緒になって「持続可能な家庭教育」に取り組んでいきましょう！



「持続可能な家庭教育」のために

県や市町の取組を利用した 家庭教育学級 「在宅取組型」

あったかい言葉かけ県民運動 いじめをしない！させない！許さない！



令和3・4・5年度の作品
のリーフレットとショート
ムービーが見られます。

大人と子ども、そして大人同士、子ども同士が、互いに「あったかい言葉」をかけ合い、思いやりあふれる温かい関係を地域社会において創り出せば、学校におけるいじめを未然に防ぐことができます。

たった一言のあいさつや声掛け、励ましはもちろん、時には自分や仲間のことを想って、勇気をふりしぼって投げ掛けてくれた言葉が、本人にとって「あったかい言葉」になることがあります。

そんな心にしみる「あったかい言葉」を学校だけでなく、広く岐阜県内の皆様からも募集します。ぜひ、ご応募ください。

(令和6年度「あったかい言葉」作品募集ちらしより)

作品に応募することを通して絆づくりを

岐阜県教育委員会では、「あったかい言葉かけ県民運動」を推進しており、その一環として広く岐阜県内の皆様から、心にしみる「あったかい言葉」を募集しています。

海津市青少年問題協議会では、その運動を受け、「あったかい言葉かけ運動」の取組を平成26年度から市内全域で行っています。市内小中高特支学校には、取り組みやすい夏季休業前等に昨年度の優秀作品とともに、応募用紙が配付されます。応募された作品は、青少年問題協議会で審査をして、心に響いた作品を海津市青少年育成市民会議で表彰するとともに、県の「あったかい言葉かけ県民運動」にも応募し、市報や公共施設等で紹介されます。

他にも、大垣市、垂井町、関ヶ原町、安八町、輪之内町、揖斐川町でも同じように市町として取り組んでいます。

この取組を良い機会として、家庭での心の温かさに目を向ける家庭教育学級を行っている園や学校があります。作品応募の過程の中で、わが子や家族、地域の人とのあたたかな関係を見つめることができ、絆を深めるきっかけとなります。



海津市立下多度小学校では、夏季休業中の在宅取組型家庭教育学級として、海津市「あったかい言葉かけ運動」に全保護者が取り組んでいます。



かけてもらったうれしかった
「あったかい言葉かけ運動」
海津市青少年問題協議会
海津市青少年問題協議会では、たくさんの方の関心とご声援のおかげで、今年度も「あったかい言葉かけ運動」の取組を進めています。今年度は、家庭や学校、地域で育った心があったかい言葉を集めて、心を温かくするきっかけを作ります。応募用紙が配付されています。ぜひ、ご応募ください。応募された作品は、審査を経て、市内の公共施設や市報で紹介されます。また、県の「あったかい言葉かけ県民運動」にも応募し、市報や公共施設等で紹介されます。

「一緒に強くなろう」
ぼくがバスケの試合で負けて泣いている時、友だちが「一緒に強くなろう」と声をかけてくれました。その日から毎日練習して試合でも勝てるようになりました。ぼくを強くしてくれたのはその友だちです。今度はぼくが友だちを支えてあげたいです。
(令和5年度城山小学校5年生)

「一緒に強くなろう」

ぼくがバスケの試合で負けて泣いている時、友だちが「一緒に強くなろう」と声をかけてくれました。その日から毎日練習して試合でも勝てるようになりました。ぼくを強くしてくれたのはその友だちです。今度はぼくが友だちを支えてあげたいです。
(令和5年度城山小学校5年生)

「大人も間違えていいんだよ！」

子供と車で出掛けた時の事です。初めて訪れる場所だったので、車のナビゲーションで私が運転していた時、道を間違えて、到着時間が予定より遅れてしまい、私が焦っていた時、「遅れてごめんなさいって謝ればいいんだから、ゆっくりでいいよ。大人だって間違えていいんだよ。誰だって間違いはあるよ。」と言われて、肩の力が抜けて、笑顔になれました。子供のやさしい言葉に助けられました。
(令和5年度石津小学校保護者)

「あったかい言葉」にまつわるエピソード(百字程度)
「あったかい言葉」にまつわるエピソード(百字程度)
「あったかい言葉」にまつわるエピソード(百字程度)

「あったかい言葉」募集

毎日の生活の中で、「気持ちのよいあいさつをする姿」「あたたかく手助けをする姿」「進んで活動する姿」など、ほっと心があたたかくなるような子どもたちの素敵な姿を見かけませんか？
そんな時は、すぐその場で「あったかい言葉」を伝えてあげてください。子育ては、良くない姿を注意することも大切ですが、ほめることもっと大切なことです。海津市青少年問題協議会では「あったかい言葉」を募集しています。家庭で・学校で・地域で見つけた心があったかい言葉や感謝の言葉などをぜひ届けてください。

◆募集内容 「あったかい言葉かけ」や、かけてもらったうれしかった「あったかい言葉」とそのエピソード
◆対象者 海津市に在学している小学生並びに高校生 海津市に在住・在勤している方
◆応募方法 裏面の応募用紙にご記入の上、以下の応募先までご提出いただくか、海津市青少年問題協議会事務局まで郵送・FAXにて応募してください。
【事務局】 海津市教育委員会 社会教育課
〒503-0695 海津市海津町高須515番地 TEL 53-1536 FAX 53-1608

【応募先】
・市内小中学校 ・市内認定こども園
・県立海津明誠高等学校 ・県立海津特別支援学校
・海津市役所、各支所 ・社会教育施設

◆応募期間 随時受付(8月末までの作品は令和6年度分、それ以降は令和7年度分の選考になります。)
◆その他 ①1人何点でも応募できます。
②応募いただいた作品・氏名等は、市報や公共施設等で紹介させていただきますので、予めご了承ください。
③応募作品の中から、海津市青少年問題協議会にて響いた作品を選び(9月下旬審査予定)、海津市青少年育成市民大会(11月開催予定)で表彰します。また、応募作品は、西濃教育事務所「あったかい言葉かけ県民運動」にも応募します。

ネットを通しての文字だけのコミュニケーションだけでなく
相手の顔を見て話すことを通してのコミュニケーションも大切にしたい！！
現在、ネット環境が整い、SNSなどのツールを使って簡単に遠くの人とコミュニケーションをとることができるようになりました。子どもたちも、わざわざ集まらなくても、ネットを通して仲間とつながってゲームをして遊ぶことができるようになり、外で子どもたちが集まって元気に遊ぶ姿を見ることも少なくなりました。しかし、ネットによる顔を見ない書き込みだけのコミュニケーションは危険をともない、ネットを通して知り合った人と実際に会ったら、自分の予想をしていた人と違って、凶悪な犯罪に巻き込まれる事件が発生することもあります。
こんな時代だからこそ、実際に顔を見ながら話すことを通してコミュニケーションを図ることを大切にしてみてください。ある調査では、子どもたちが親にしてほしくない行動で、以前は「勉強しろ」でしたが、今は「食事中にスマホを触らないでほしい。」になりました。親も忙しくなり、なかなかわが子と話す時間が少なくなっています。また、子どもたちが外に出なくなったことにより、地域とのつながりも少なくなりました。
ぜひ、「あったかい言葉かけ運動」に賛同いただき、言葉を通してのコミュニケーション(絆づくり)を大切にして「あったかい心でつながる海津市」にしていきたいと思います。
たくさんの方の応募をお待ちしています。

海津市「あったかい言葉かけ運動」応募用紙(児童生徒・保護者・学校職員用)

学校名	学年・学期・番号	姓	名	組	番
保護者の方 記入欄	※保護者の方は、こちらにお子様(親子)の学年、学期、氏名をご記入ください。				
ふりがな	※苗字に○をつけてください。				
氏名	児童生徒	学校職員	保護者		
かけてもらったあったかい言葉					
「あったかい言葉」にまつわるエピソード(百字程度)					



「持続可能な家庭教育」のために

県助産師会、保健センターと連携した学校の授業を家庭に開く

神戸町立下宮小学校 家庭教育学級

いのちの授業

「赤ちゃんの誕生」

「子どもの成長」

令和6年11月15日(金)

12月11日(水)

「講演会型」+「在宅取組型」

6年生+保護者



下宮小学校PTAは、来年度からボランティア制を導入します。「いのちの授業」のように、地域の人材と連携した授業に保護者も参加する家庭教育学級は、保護者の負担を軽減しながら、保護者の学びの場を継続することができます。

学校の学びを保護者の学びに

下宮小学校の家庭教育学級は、今年度途中より、今回のような家庭教育にかかわりの深い授業に保護者がいっしょに参加をして学ぶことができるようにしました。

今回は、6年生保護者対象の「いのちの授業」でした。授業に参加した6年生の保護者の一人は、「助産師さんの授業を受けて、自分の子どもが生まれたころのことを思い出しました。大きくなって、子どものことでいろいろ思うことはあるけど、初心に戻ったような気持ちになりました。」と話してくれました。



子どもの成長

2回目の最初は、「助産師さんの仕事って何をするの?」「赤ちゃんを産むときにはどれくらい痛い?」といった児童の質問に助産師さんが答えました。

そのあと、赤ちゃんが生まれてから歩くようになるまでの成長の様子と育てる家族のお世話の内容について教えてもらいました。



自分のよさを見つける

自分のいいところを水色の用紙に書いたあと、友達に自分のよさを黄色の用紙に書いてもらいました。その後、サプライズとして、保護者をお願いして「お子さんのよいところ」を書いてもらったピンクの用紙が入っている封筒をもらいました。子どもたちは、それを読むことで、自分のよさを認め、自分を大切に感じるようになります。

保護者が我が子のよさを改めて考える機会は、「在宅取組型」の家庭教育学級と言えますね。

神戸町全小学校でのいのちの授業

神戸町では、すべての小学校で県助産師会・保健センターと連携してカリキュラムに基づいた「いのちの授業」を行っています。下宮小学校以外は、3年生が授業を受けます。

赤ちゃんの誕生

下宮小学校6年生の1回目は、保健師さん1人、助産師さん3人、看護師さん2人が中心となって授業を行いました。針の穴の大きさの卵子がお母さんのおなかの中で大きくなり、出産するまでの様子を写真や模型を使って教えてもらいました。その後、生後すぐの赤ちゃんの人形を抱っこしたり、妊婦体験をしたりして、命の重みを体験しました。



子どもたちに配られたのは、小さな黒い厚紙に空いた針の穴。受精卵はこの大きさであることを子どもたちがのぞいてびっくり。こんな小さな受精卵からはじまり、赤ちゃんになるまでの様子を写真や赤ちゃんの人形で学びます。



赤ちゃん誕生のメカニズムを知ったあとで、お母さんや家族の気持ちを考えます。



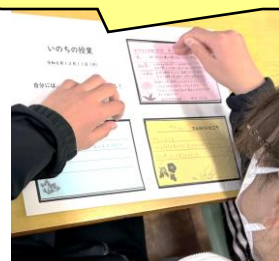
赤ちゃんを抱くときの注意を聞いて、赤ちゃん人形を抱きます。大事に大事にだっこする児童たちは思わず笑顔!



あなたの命は未来につながる命

赤ちゃんはどんどん成長し、大人になり、また、赤ちゃんを産み、育てます。君たちが今ここにいるということは、これまでずっとつながっていて、これからつながる命なのです。

子どもたちは、自分のよさが書かれた用紙を糊でシートに貼り、折りたたんで大事に家に持って帰りました。



「持続可能な家庭教育」のために

子育て支援センターと学校の連携



揖斐川町立揖斐川中学校+子育て支援センター 幼児との触れ合い体験

「体験活動参加型」+「子育てサロン型」

令和6年10月15日(火)

10:40~11:30 3年生生徒
乳幼児保護者

【生徒の感想】

少し手を加えたら壊れてしまいそうな命。今、僕が生きているということは、これまでとても大切にされてきたということことだ。

連携で生まれる家庭の授業での貴重な体験

中学校の技術・家庭科の家庭分野では、3年生に「幼児の生活と家族」という単元があります。自分の幼児の頃を振り返ることから始まり、幼児の身体や心の発達、生活や遊びについて学びます。その中に、幼児との触れ合い体験があり、揖斐川中学校では、子育て支援センターに在所している親子に協力していただいています。

子育て支援センターの職員の方に話を聞いたり、学んだりしたことをもとに、おもちゃを作って、触れ合い体験に臨みました。

この日は、1, 2歳児の幼児が17人。中学生は30人。幼児のお父さん、お母さんは、子どもたちを生徒に預けると、遠く離れた別室に移動します。お母さんがいなくなったことに気づき泣き出す子や駆け出しに行ってしまう子に、生徒は四苦八苦。でも、それが勉強です。抱っこしたり、優しく声をかけたり、作ってきたおもちゃで遊ばせたりすることで、幼児たちも心を開き、笑顔も出てきました。

そして、中学生にとっては、自分の作ったおもちゃに夢中になってくれることは、この上ない喜びとなりました。

【生徒の感想】



一番の感想はやっぱり「疲れた」だったけれど、赤ちゃんのためにおもちゃをいっぱい作れたし、泣きながらでも私に寄ってきてくれたりと、私のことを少しは頼ってくれたときは本当にうれしかったです。〇〇ちゃんは、私の事を忘れてるだろうけど、私はこの経験を忘れないように、将来役立てられるように頑張ります!!

作ったおもちゃを用いて、幼児と触れ合えたことがなにより楽しかったし、ほんとかわいくて、いやでした。幼児の立場になって考えることは、すごく難しく、お母さん、お父さん、保育士さんは、本当にすごいなと改めて感じました。



約1時間、赤ちゃんに触れ合ってみて、お母さんやお父さんたちの大変さがよく分かりました。1時間抱っこしているだけで、腕や肩が疲れるのに、お母さんやお父さんは、これが毎日だから、本当にすごいなと思いました。自分がこのくらいの年齢の時、きっとお母さんとお父さんは大変だったと思うので、感謝しないとないと思いました。

自分には、弟や妹がいないので、分からなかったけど、世話をする母さんがどれだけ大変なのかを実感することができました。将来、自分もそういう立場になるかもしれないので、その時はサポートしていきたいです。



子育てをしている親がどれだけ大変で、どれだけ行動しているか身をもって分かった。今度またこんな機会があったら、絶対俺の懐で安心させて寝かす。ただ、1つ言えることがあるとすれば、めっちゃ可愛かった。



すっかり仲良くなったところに、お父さん、お母さんが迎えに来て、50分の触れ合い体験は終わりました。

別室に移動したお父さん、お母さんは、お茶を飲みながらおしゃべり会をしました。

子育て支援センターを利用しているときにも子どもたちから目が離せないで、今回、久しぶりに子どもから離れて、リラックスできる時間を楽しんでいました。



子どもたちが喜んで遊んだ生徒手作りのおもちゃは、子育て支援センターにプレゼントされました。

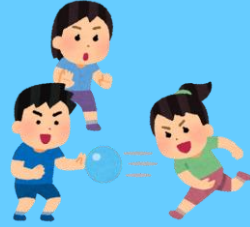
養老町立池辺小学校 PTA親子活動 横投げドッジボール

「体験活動参加型」

令和6年10月26日(土)

9:35~10:35 低学年

10:45~11:45 高学年



2年連続の親子ドッジボール

昨年度、池辺小学校創立150周年のPTA親子活動でドッジボールを行ったところ、子どもにも大人にも好評でした。今年も、親子で楽しく遊びたいという声が高まり、10月26日の養老町内一斉家族参観日の日に実施しました。

池辺小では、1~6年生のファミリーという縦割りグループを6つ作って、オリエンテーリングをしたり、ロング休み時間に遊んだりしています。今回は、1~3年、4~6年に分かれて、親子混合チームで2回に分けて行いました。

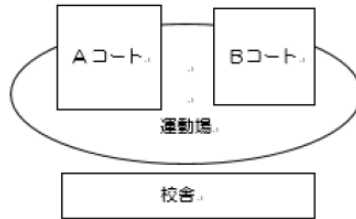
子どもが相手とはいえ、なかなか手強い。保護者にとっては、日頃の運動不足と子どもの成長を感じる1日となりました。

PTA 親子活動

高学年(4年生~6年生)

1. 日にち
10月26日(土) 10時45分~11時45分
2. 場所
晴れや曇りの場合: 運動場
3. 活動内容
横投げドッジボール(ボール2個)
4. チーム
ファミリー(縦割り)班に分ける。
親子が同じチームでおこなう。
5. タイムスケジュール

めあて: 親子で楽しく遊ぼう。



お父さん、大活躍です。

- 始めの会 1. PTA 会長さんの話
(10:45~10:50) 2. 試合の場所、時間 (PTA 運営委員会)

10/26(土) 親子活動 感想

6年

今日は、親子活動でドッジボールをしました。

私は、親子ドッジで、ボールを投げていけなかったボールをあげました。お母さんや他の親さんたちと一緒にやると、みんな強かったし、みんな投げた子にボールをたくさんあげていてみんな優しくかったです。他の親さんのボールがはやくて、私は、とりたいと思いました。

私も、親さんみたいに強くて、はやくボールを投げたみたいですね。

異学年の親子みんなが楽しめるように、横投げというルールで行いました。また、投げられない子にボールを渡すという行動が広がって、なごやかな活動になりました。



10/26(土) 親子活動 感想

親子ドッジボールお疲れまでした。

天候も暑くも寒くもなかったのが、動きやすかったと思いき、久しぶりの体をほぐす活動だったのが、私的にも良い運動になりました。昨年は学年単位だったので怖さもありましたが、今回はファミリーだったのが、いろいろな学年の子と交流でき楽しかったです。こういう参観が一番子どもの楽しそうな姿が見れくて嬉しいですね。

企業内家庭教育研修



株式会社ラディアント

日時：令和6年11月13日（水）
13:00～14:00

対象：従業員（47名）

テーマ：メンタルヘルスについて

講師：医療法人清澄会 不破ノ関病院
公認心理師・臨床心理士
渡辺 将成 様



岐阜県では、家庭の教育力の向上と地域社会全体での子育ての推進を目的に、企業や事業所と連携しながら、子育て中の親だけでなく、これから親になる従業員、子育てが一段落した従業員、管理職など幅広い層への家庭教育研修会を開催しています。

株式会社ラディアント様は、障がい福祉専門の会社であるため、利用者や職員のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高めることができるよう、毎年2回の研修会を行っています。令和元年から続けてこの企業内家庭教育研修事業を活用して、研修会を開催していただいています。

呼吸法を実践するだけでも楽になる。

- ✓ 楽な姿勢で、ため息をついてから息を吸う。
- ✓ おなかの膨らみを感じる。（腹式呼吸）
- ✓ 吸った時間の倍の時間をかけて息を吐く。
- ✓ それを繰り返す。

ヨガや太極拳の立禅（立って瞑想すること）などと共通の呼吸法です。



ストレス反応のワーク

自分がよかれと思ってやった行動に対し、先輩が一言声をかけた場面を想像する。

先輩は、親切に教えてくれただけかもしれないのに、「注意された。」「叱られた。」ととらえるのはストレスを感じているのかも。



【主催者様の声】

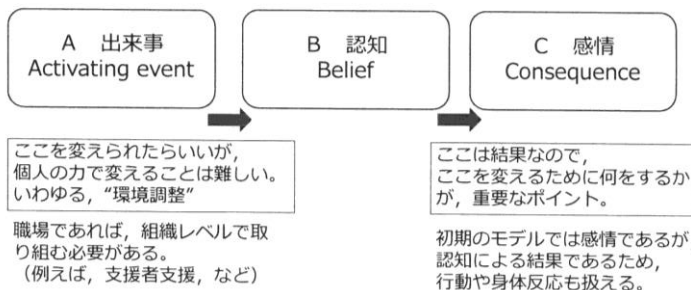
なかなか自分と向き合うことが難しい中で、自分との向き合い方、行動分析の仕方等、とても分かりやすく丁寧に説明していただき、学ぶことが多かったです。

ワークでは、じぶんとは違う意見の発見がありました。呼吸法を実践していきたいとの声がありました。

【参加者の感想】

- ストレス反応のワークを行って、自分の小さなストレス反応に気づいて対処したいと思いました。
- 認知が変わるだけで、ストレスの度合いが変わり、自分自身が楽に生きられるのであれば、モヤモヤとすときは、矛盾が無いか落ち着いて確認したいと思います。
- 呼吸法を取り入れて、安定した気持ちで子どもたちと向き合っていこうと思います。職場そのものも、働きやすい環境にできるよう、みんなで意見交換していきたいと思います。
- ABC図式で、結果を変えるには、認知の部分を変えればよいということを知ることができてよかった。
- ストレスは誰でも持っていますが、認知、考え方を変えることによって、結果、感情が変わってくるので、いろいろな人の意見を聞くことは大切なことだと思います。

基本的な認知モデル（ABC図式）



自分にとって望ましくない結果を変えるには、その原因となった出来事が起こらないように環境調整をしていくか、出来事に対する認知を変えていく。

【アンケート結果】

本日の研修テーマと内容についてどう思いますか。			
たいへん良い	おおむね良い	あまり良くない	良くない
76%	24%	0%	0%
企業で家庭教育についての研修を実施することについてどう思いますか。			
必要である	どちらかという必要である	あまり必要はない	必要ない
50%	45%	5%	0%

みなさんの職場でも研修してみませんか。何人でも、どの時間帯でも、無料で開催できます。

西濃県事務所にお電話ください。

Tel.0584-73-1111 内線212

